

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H27 入学 現5年	67.5 (1.03)		68.4 (1.05)	
H26 入学 現6年	78.4 (1.18)	71 (1.11)	79.2 (1.12)	71 (1.08)
H31 正答率の全国比		(1.11)		(1.07)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は、県平均を1としての比較。

◎「H31 正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- 国語、算数ともに全国平均・県平均を全ての項目で上回っている。特に、算数科の図形・加法と乗法の混合した計算は、全国平均を大きく上回っている。
- 学年で見る平均は、全国平均・県平均を全ての項目で上回っているものの、上位層と下位層に差がある。個別の指導・支援を必要とする児童もいる。
- 同音意義の熟語に関する漢字の書き取りの正答率が低い。
- 読書時間は長い傾向にある。算数のノートは、全員がしっかりとっている。
- 自己肯定感が低い傾向にあり、挑戦することに対して、臆している様子が見られる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 国語以外の教科の中でも、漢字の意味を意識しながら使わせるために、自分の書いた文を読み返す習慣をつける。
- 授業の「考える」段階で言葉を使って説明する時間を確保し、「考え合う」段階で多くの説明の仕方に触れさせる。もう一度、自分で説明する時間を設ける。
- 自分の考え等を発表する機会を多く設け、自信をつける機会にする。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 家庭学習の日記や日頃から書く文章にも、既習の漢字を意識して使わせる。
- 家庭学習や「花まるタイム」等で、基礎的計算問題に継続して取り組ませる。
- 学校生活の様々な場面で、全校児童の前に立って発表する機会をつくり、やり遂げさせるようにする。